

伊勢原

中世 MAP

伊勢原市内では近年の発掘調査によって様々な時代の歴史が明らかにされています。今回は、特に成果が注目されている「中世前期」(12世紀後半～14世紀)に見つかっている遺跡とお寺について紹介しましょう！

子易・中川原、上柏屋・子易遺跡

鈴川右岸に所在する子易・中川原遺跡では、鎌倉時代～南北朝時代の屋敷跡が見つかっています。3000基以上の柱穴が検出され、掘立柱建物跡はこれまでに計20棟を確認しています。また、3間×4間の礎石建物跡(本堂)を中心とする中世寺院跡やその前面に広がる池状遺構も発見されています。

鈴川の対岸にあたる上柏屋・子易遺跡でも、鎌倉時代の掘立柱建物跡が4棟以上確認されており、大きな屋敷跡があった可能性が考えられます。

子易・中川原遺跡の木簡の記事は『発掘帖第22号』を見てね！



子易・中川原遺跡6-2工区 中世面全景（東から）



上柏屋・子易遺跡13-3工区 C3号掘立柱建物跡近景（西から）

湯屋ってなに？

湯屋とは昔のお風呂のことです。今のようにお湯につかるのではなく、「掛け湯」または「サウナ」のようなお風呂です。お坊さんの修行の一環として使われていたようです。



※4

これは『一遍上人絵伝』にある湯屋の絵だよ。今のお風呂とちょっと感じが違うよね。

和田内遺跡にあったのもこんなんだったのかな。

石尊社

大山信仰は古代からあるようだけど、中世の段階でも源頼朝さまの厚い信仰があつたようだよ。



日向薬師（宝城坊）

宝城坊はもとは「靈山寺」というお寺で、行基開創といわれている古いお寺なんだ。珍しい中世瓦もでいでて注目されているよ！

上柏屋・子易遺跡

子易・中川原遺跡

上柏屋・石倉中遺跡

石倉中遺跡からは、近世から古代までの大山道が見つかっているよ。中世の大山道は現在発掘中！どこかでお伝えできるかな？あと、浄業寺跡と同範と考えられる軒平瓦が出土しているのも注目！

注 揭載している遺跡は、普段見学することができません。見学等が開催される時にはホームページ等でお知らせいたしますので是非見てきてください！



ここからは、中世墓もみつかってるんだ！ 13世紀代の渥美焼の蔵骨器の中に骨が残っていて、調べたら40～50歳ぐらいの人ってわかったんだよ！

東名高速道路
新東名高速道路
日向薬師（宝城坊）
大山寺
石尊社
子易・中川原遺跡
上柏屋・子易遺跡
安楽寺跡
浄業寺跡
上柏屋・石倉中遺跡
神成松遺跡
西富岡・向畠遺跡
伊勢原IC
伊勢原JCT
伊勢原駅
小田原厚木道路
横浜静岡線
246
西富岡・向畠遺跡
伊勢原JCT
伊勢原駅
小田原厚木道路
横浜静岡線
246

西富岡・向畠遺跡

この遺跡からもたくさん掘立柱建物跡や竪穴状遺構がみつかっているよ。覚えてるかな？柿がでてきてちょっとびっくりしたよね！

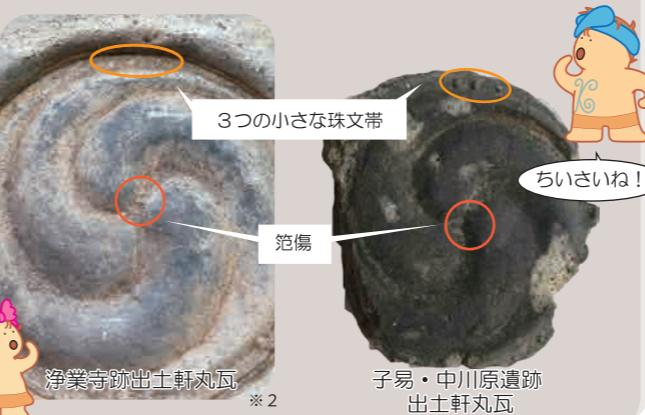
～兄弟瓦のお話～

子易・中川原遺跡から、南へ500m程離れたところに浄業寺跡があります。浄業寺跡は、建仁元（1201）年北条政子により浄土宗の寺院として建立されたといわれる寺院で、現在は明治時代の廃仏毀釈によって存在していません。

発掘調査によって、中世のお寺の遺構は確認されませんでしたが、貿易陶磁や瓦などから、中世段階にはお寺があったと考えられています。浄業寺跡からは、2種類の軒丸瓦が出土していますが、そのうちの1種類と子易・中川原遺跡から出土した軒丸瓦が同じものであることがわかりました。

巴文中心の同じ位置に「范傷」があること、巴のしっぽの先端に細かい珠文が配置されることから同じ範でつくられた「同範瓦」であることがわかりました。離れた地で同じ範型を使う瓦が出土する背景には大きな意味があります。浄業寺跡と子易・中川原遺跡の間にはどんな関係があったのでしょうか。謎はさらに深まります。

違う場所から同じ瓦がでてくるなんてすごい！



浄業寺跡出土軒丸瓦

※2

子易・中川原遺跡出土軒丸瓦

※3

和田内の湯屋遺構の記事は『発掘帖第26号』をみてね！



上柏屋・和田内遺跡

上柏屋・和田内遺跡では、「湯屋」と考えられる遺構がみつかった他、掘立柱建物跡や竪穴状遺構が確認されています。この遺跡からは古代末～中世初頭と推定される軒瓦が出土していますが、この時期の瓦の類例は県内でも少なく貴重な瓦です。糟屋盛季が建立したといわれる「極楽寺」に使用された可能性が高いといえるでしょう。



※1

軒平瓦の凸面は縄叩き！ これって中世の段階では鎌倉の永福寺ぐらいしか県内にはないんだよ！

神成松遺跡

神成松遺跡では幅30～50mの狭い谷の内部で、棚田状に連続する水田が見つかりました。水田遺構の埋め土からは、



どうあんようけいせいじわん 同安窯系青磁碗など中世前

期に相当する遺物が出土していることから、伊勢原市内一帯が「糟屋荘」と呼ばれた 安樂寿院の荘園であった時期 の遺構と考えられています。

何が見つかったの？

木枕とヒの炭化種実が見つかった他、稻の珪酸体が見つかったんだって！

糟屋氏ってだあれ？ 安樂寿院ってなに？

中世前期と呼ばれる時代は、「糟屋氏」が伊勢原市内を治めていたといわれています。「糟屋氏」とは、藤原氏の一族で、平安時代末頃に藤原良方の子・元方が相模守として東国に下向し、そのまま土着して「糟屋」と名乗ったといわれる氏族で、源頼朝の家臣として活躍しましたが、建仁3（1203）年の「比企氏の乱」によって衰退してきました。

安樂寿院とは、京都・伏見の鳥羽離宮の一つである仏堂が前身の寺院で、創建は保延3（1137）年とされています。このお寺の荘園が「安樂寿院領」と呼ばれる荘園で、伊勢原市内の一帯が荘園のエリアだったと考えられています。糟屋氏が最初に「糟屋荘」という荘園をつくり、後に、安樂寿院に寄進したことが文献等から明らかにされています。

実態がよくわからなかった伊勢原市の中世前期ですが、近年の発掘調査によってこの時期の遺構や遺物が多くみられるようになりました、徐々に明らかにされてきています。



※3

※1～3の遺物写真は神奈川県教育委員会所蔵資料です。

※4は国立国会図書館ウェブサイトから転載しました。